

原文

枕草子

冬はつとめて。
雪の降りたるは、言ふべきにもあらず、霜のいと白きも
またさらでもいと寒きに、火などいそぎおこして、
炭もて渡るも、いとつきづきし。
昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、
火桶(ひおけ)の火も、白き灰がちになりて、わろし。

現代語訳

冬は、早朝（がいい）。
雪が降っているの言うまでもない。霜が真っ白におりるのも（いい）
また、雪や霜がなくてもとても寒い早朝に、火などを急いで起こして、
炭を持って（廊下などを）通って行くのも、たいへんにかわしい。
昼になって、（寒さが）だんだんゆるんでいくと、
火桶の火が白い灰ばかりになって好ましくない。

重要語句

つとめて↓早朝。 わろし↓好ましくない。
つきづきし↓似つかわしい（雰囲気などが合っている）

